別紙2　　令和6年度　　自己評価書　　作成日:1月22日　　国分寺市立第四小学校　　校長名　大島　晃

教育目標:〇ゆたかな心で　じょうぶな子　　◎自らよく考えて　やりぬく子（重点目標）　　〇みんなで　協力しあえる子

目指す学校像:1心が響き合う学校　2学ぶ喜びがあふれる学校　3力がみなぎる学校　4互いに結ばれている学校

目指す児童・生徒像:1よく考え伸びようとする子　2心優しく支え合おうとする子　3すすんで心身をきたえようとする子

目指す教師像:1自らを高めるとともに、互いに高め合う教職員　2教育論をもち、児童の育ちを語れる教職員　3確かな人権意識をもつ教職員　4経営参画意識をもつ教職員　5教育公務員としての自覚をもつ教職員　6学校・地域を愛せる教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標（中間）	努力指標（最終）	成果指標（中間）	成果指標（最終）	分析コメント	改善策
豊かな人間性の育成	人権教育の充実 道徳教育の充実 生活指導の充実 体験的活動、表現や鑑賞活動の充実	全教育活動を通して、いじめ防止教育の充実に努め、命を大切にし、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	「いじめ防止基本方針」に則り、年間を通じていじめ防止教育を徹底し、いじめの兆候を見逃さず、一人ひとりの児童理解に基づいた指導の充実を図る。	4	4	4	4	「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ対応を組織的に行っている。こころのポストを新設し、児童が声をあげやすい環境を整えた。「いじめ対策委員会」を開催したり、情報共有を密にしたりすることで早期解決を図っている。	友達との関わりの中で、嫌なことを伝えられない児童もいる。引き続き、複数の目で見守り、指導していく。代表委員会児童が発信する取組を広める機会を増やしていく。
		基本的な生活習慣の確立を図り、自分自身で自他の安全に配慮して行動しようとする態度を育てる。	「返事・あいさつ・後始末」を合言葉に、生活指導を徹底する。「四小生活スタンダード」を改善、指導の充実を図る。	4	4	3	4	代表委員会のあいさつ運動が浸透してきた。自分からあいさつをする児童が増えている。	引き続き、児童が主体的に学ぶ意識をもつことができる授業開始のあいさつを実践する他、あいさつ運動で高まった児童の意識が持続するよう、学級での指導を工夫する。
確かな学力の定着	基礎的・基本的事項の徹底 授業の充実を図るための授業改善 読書活動・プログラミング教育の推進	児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業の実践し、児童の自己肯定感を育てる。	授業のねらいと振り返りを全授業で行い、児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業を実践し、児童の自己肯定感を育てる。	4	4	4	4	毎時間のねらいとゴールを明確にし、児童の実態に応じた教材を使用した授業づくりを心掛け、達成感を味わえるようにしている。更に全員が達成感を感じられる授業づくりを目指す。	朝学習を継続し、基礎基本の定着を図るとともに、自由進度学習を取り入れる等、更に個に応じた指導の充実を図る。
		自ら学び、自ら考える活動の日常化を図る。	学習活動においてICTを積極的・効果的に活用し、情報活用の基礎および実践力、ルールや科学的な理解を図る。また、朝読書や読書旬間を設け、読書活動の習慣化を図る。	4	4	4	4	教員同士の実践を基にした情報共有により、効果的なICTの積極的な活用が進んでいる。朝読書や読み聞かせ等により読書への関心は高まりつつある。	児童が直接交流するためのきっかけづくりとする等、更に児童が主体的に学習に取り組む効果的な活用を図る。図書委員会の取組や司書による読み聞かせ等、効果的な実践を継続活用し、読書の習慣化を図る。
たくましい心身の育成	健康教育の積極的な推進 体育活動の日常的実践を推進 安全教育の推進	食育を計画的に実施し、食への関心を高める。	給食指導や会食会を通して、食や健康に興味をもち、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。	4	4	4	4	給食委員会の取組やお楽しみ給食を経験したことで児童の関心が高まっている。苦手なものを少しずつでも食べられるようにする指導を続けている。	給食委員会の取組や、栄養士と連携した食育、家庭科の学習で高めた興味・関心を、給食指導にいかしていく。
		体育指導の充実	「遊ぶ、かかわる、高める」を合言葉に、自ら体力を高める児童の育成に取り組む。自他の安全に目を向け、自ら危機を回避し、行動できる資質や能力を育む。	4	4	4	4	運動委員会によるなわとび旬間での促し等、体育の学習が運動の習慣化につながるよう、遊びに取り入れられる活動を工夫している。安全に関する留意事項を継続している。	なわとび旬間での意欲を持続できるよう、休み時間の校庭遊びを奨励する。また、校庭での遊び方を再度指導するとともに、引き続き体育学習時の安全指導を徹底して、事故防止に努める。
学校・家庭・地域の連携強化	特色ある教育活動の充実	「四小国分寺学」として地域に親しみ、学び、貢献する授業を推進する。	「四小国分寺学」として、史跡等の地域環境や地域人材を活用した、地域に親しみ、地域に学び、地域に貢献する授業を推進する。	3	3	3	4	地域人材の活用した学習が広がってきた。2学期以降の各学年の取組が広がり、児童の実感が高まっている。	今年度の取組やつながりを基に、関係を広げ、引き続き、地域と連携した指導を共有し、国分寺への郷土愛や豊かな心の醸成を図る。
	家庭・地域との連携及び協働を推進	コミュニティ・スクールとして、家庭・地域と連携して児童を育てていく。	第四中学校と合同でコミュニティ・スクール協議会を立ち上げ、教育活動においても一貫した教育を推進する。	2	2	4	4	小中連携において、それぞれの取組を知り、意見交換を交わすことができた。それを基に2・3学期の学習で家庭・地域との連携を進めた。	国分寺学の取組を通して、第四中学校との連携・交流を更に深める。9年間を見通したカリキュラムを作成する。コミュニティ・スクール協議会と連携して地域の教育力を活用する。